



配信元：



深圳未来创新服务中心
MIRAI Innovation Center Shenzhen

深圳レポート

深圳ニュース 速報

- 中国共産党中央弁公庁、国務院は2020年10月11日に「深圳における中国の特色ある社会主義先行モデル区の建設を支持する総合改革試験的実施方案(2020-2025年)」を発表しました。
- これは昨年の2019年8月18日に「深圳における中国の特色ある社会主義先行モデル区の建設を支持する意見」を公表してから、より具体化された実施計画の発表になります。

今回の「方案(計画)」の要旨で注目される項目は下記のとおりです。

- ・国務院から与えられた永久基本農作地以外の土地資源の開発審査権限を深圳市政府に与える。
(※永久基本農作地とは中央政府が定めた如何なる状況でも使用用途を変更してはならない基本農作地のこと)
 - ・深圳域内の条件を満たす企業の海外上場向け融資の支援、深圳市場への参入を緩和するための特別措置リストの制定。
 - ・深圳におけるデジタル人民元の地域限定試行事業の支援。
 - ・人民元・外貨を統合し国境を越えた預託証券事業の試験的展開(Chinese Depositary Receipt)。
 - ・条件を満たす外資金融機関の深圳での合法的な証券会社、ファンドマネージメント会社の設立や決済業務許可証の入手などの支援。
 - ・国際船舶登録制度の導入を模索し、深圳に国際航行船舶の保税給油許可権を与え、保税燃料の供給市場の一層の開放を求める。
- 全編は8条、27項目にわたり、2025年までの実施方案を出しており、金融を含む重要な分野やプロセス改革の面で、深圳により高度な自主権を与え、より高いレベル、高い目標の改革開放を進めることを支援することになっています。

10月14日に予定されている「深圳改革開放40周年祝賀大会」には、習近平国家主席の出席が正式に公表されており、最新の方案の正式発表は深圳市がグレーターベイエリア(粵港澳大湾区)での地位が高まっていることを示しています。



引用元：新華社(中国の国営通信社)

参考サイト

<http://www.gov.cn/>

<https://bit.ly/3nKcxYy>

「Eat right, Be BETTER」、フードもスマートな時代に

社名	深圳市維士智慧健康管理有限公司			英語名	Weishi
代表者	魏強	URL	http://www.weis-inc.com/index.html		
所在地	深圳市南山区粤海街道大冲社区深南大道9672号大冲商務中心(一期)2棟4号楼1606				
売上(RMB)	-	従業員(人)	50未満	創業年	2019年
資本金(RMB)	15,722.2万				
サービス内容	デジタルフードに焦点を当てた国内初のIT企業である。独自に開発したアプリとミニプログラムである「デジタル飲食」(Weishi Digital Meals)のコンセプトを開拓し、オンラインツールとオフラインケータリングを通じて、正確なカロリーと栄養素を兼ね備えた1日3回の食事を提供する。				

現在、Weishi Digital Mealsの1日あたりの平均注文量は約800食である。さまざまな健康ニーズを持つユーザーのために、Weishiはターゲットを絞った食事療法計画と食事の供給を提供している。

●減量およびフィットネス市場

Weishiは、フィットネス業界の機能を補完して食事と運動の融合を実現し、ユーザーが減量目標をより迅速に達成できるようにする。

●慢性疾患市場

Weishiは深圳最大の慢性疾患治療機関と協力して、深圳人民病院で糖尿病患者に食事を提供しており、入院患者のケータリング率は85%に達している。患者の食事計画は医師が処方し、Weishiが患者の摂取量に基づいてカスタマイズされた食事を提供する。

●栄養と健康に関心のあるフードデリバリーユーザー

北京、上海、広州、深圳などの都市は、何百万人もの人々が毎日フードデリバリーを利用しているが、栄養などを考慮しながら、自ら栄養価値の高いランチを選ぶ人はほとんどいない。そのため、Weishiは、フードデリバリーに特化したブランド「ShufDa 数搭」を開発。出勤族が栄養の高い健康食を食べられるようにすることを目的としている。

将来的には、現在の管理システム、データベース、アルゴリズム、サプライチェーンシステムに基づき、妊産婦市場、子供市場、高齢者介護市場への参入など、その他の垂直セグメント市場も開発する予定である。



業界ポジション:

中国初のデジタルフードに焦点を当てたIT企業

創設者である魏強(Wei Qiang)氏は、かつてアリババB2Bの副総裁を務めたこともある連続起業家である。彼の自身の健康上の問題により、2017年にアリババを辞任し、韓国の専門看護施設にて3か月間の専門的な食事と運動の管理を受けた経緯がある。適切な食事療法と適度な運動により、彼は健康を取り戻しただけではなく、新しいビジネスプランも生み出したのがこのデジタルフードである。Weishiは、2019年の年初に創業メンバー達と個人投資家達から1億5000万元のエンジェル投資を受けた。

Weishiは、デジタルダイエットを切口に、オンライン上の健康食のミニプログラムを独自に開発。ユーザーデータを管理し、健康ソリューションを提供している。オフラインでは3色の小さなランチボックスで、ユーザーに1日3食分の正確なカロリーと栄養を提供している。毎食の価格は約40RMBで、1日の平均注文量は約800食である。

セントラルキッチン運営会社との提携を求めていたが、Weishi側のデータと評価指標に基づく確実なデータを使用した「自家製の食事」を作る理念に意気投合した会社が1社もなく、Weishiは自ら深圳に4,000平方メートルのセントラルキッチンを作り上げた。ユーザーは携帯電話のミニプログラムから注文やケータリングの指示を送信、セントラルキッチンは注文された食事を配達センターへ送り、温めてからにユーザーに届けるスキームとなっている。

まだ走り出したばかりだが、これからユーザーの蓄積と、完全なサービスプロセスが確立された後には、北京、上海などの地域でセントラルキッチンフランチャイズ展開を開始する予定である。標準化された要件と標準データを提供し、デリバリーフード供給のアウトソーシングを実装し、徐々にソーシャルケータリングに拡張していく予定。

自律は私に自由を！

最近中国では若い世代を中心に健康志向が高まってきており、会員制ジムとフィットネスクラブが急増しています。ランニングなど気軽にできる運動だけでなく、パーソナルトレーナーの指導の下、本格的なトレーニングに取り組む人も多く、ジム通いが一つのライフスタイルになりつつあります。

しかしながら、今年は新型コロナウイルスの影響による外出制限と各種施設の集団利用制限などにより、フィットネスのオンライン化が進み、自宅でもトレーニングができるオンラインレッスンが盛況です。中でも注目を集めているのが「Keep」というアプリです。記事のタイトルでもある「自律は私に自由を」はKeepのスローガンでもあります。



運営する会社は2014年に設立されたスタートアップ企業でありながら、2017年にはユーザー数1億人、2019年度には2億人を突破し、急激に成長しています。

そんな中、今年の5月には、シリーズEとして8,000万ドルの資金調達をし、スポーツテクノロジー分野で最初の「ユニコーン」企業となりました。

アプリには入門編から、ヨガ、脂肪減量、筋肉作り、部分痩せ、ウォーキング、ランニングなどのカテゴリーがあり、また各カテゴリーには初級者から中級者などに合わせて、トレーニング時間と難易度が異なる1200以上のコースが用意されています。

また、自分の身長・体重・週間トレーニング可能時間・目標などの基本情報を入れることで、アプリが自動的にトレーニングメニューを作ってくれるので、悩むことなく、また飽きることなく、フィットネスを楽しむことができます。

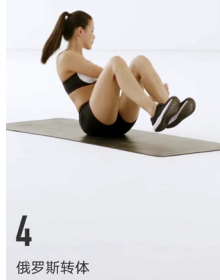
唯来企业管理咨询（深圳）有限公司
副總經理

姜 香花

日本・中国専門の進出・撤退案件のエキスパート。
現在はクロスボーダーM&Aも手がけている。日本人、中国人の気持ちを理解したコンサルティングに定評。中国事業再編・M&Aサービス担当。



00:09



4

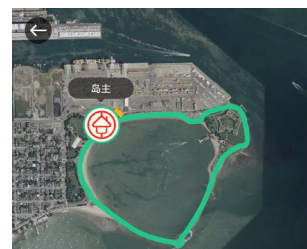
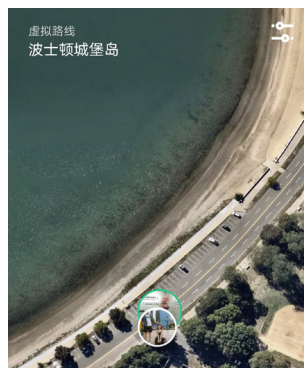
俄罗斯转体

滑动以完成 >>>

いずれのコースも呼吸、動きのポイントなどを音声と動画で指導してくれるので、非常にわかりやすつくられています。

また、Keepはトレーニング機能以外にも、様々なソリューションを提供しています。特に若者に人気なのは、SNS機能を通して自分のトレーニングの様子や、決意表明、トレーニングの成果などの共有です。ユーザー同士のランニング情報も確認できるので、より達成感をもたらすことができます。

例えば、下記はバーチャルでアメリカボストンのキャッスルアイランドをランニングできるコースであり、臨場感を味わうことができます。



波士顿城堡岛

全长 3.46 公里 美国

53044 次

打卡

Keepのすべての資金調達ラウンドに参加しているGGVキャピタルのエグゼクティブディレクターによると、中国のスポーツ人口は3億6,000万人であり、消費需要は膨大である中、Keepは間違いなく国民的ブランドになるとのことでした。

中国のフィットネス普及率は世界に比べるとまだまだ低いので、今後市場は更に拡大していきます。関連商品のECも始めているKeepのビジネスモデルがこのまま先頭を走っていくのか、それともまた新たなアイデアを持つライバルが出てくるのか、今後の戦いが楽しみです。

※画像引用元：「Keep」アプリ内画像

（レポートは2020年9月17日現在の情報）



深圳未来创新服务中心
MIRAI Innovation Center Shenzhen

深圳市南山区软件产业基地5E棟522号 518061
TEL:86-135-3089-3085
<https://micsz.jp/>